

ださい。」

ハナは、父母と夫の前にその反物をさし出した。

「おお、とうとうでかしたか。」

藤兵衛は老いの目になみだをためて喜び、ケンも手をたたか**んばかり**にほめそやした。もちろん、夫の勝蔵もたいへん喜んで、

「苦労したかいがあったな。」

といたわるように言った。

その後、藍あゐの香かおりも高いち

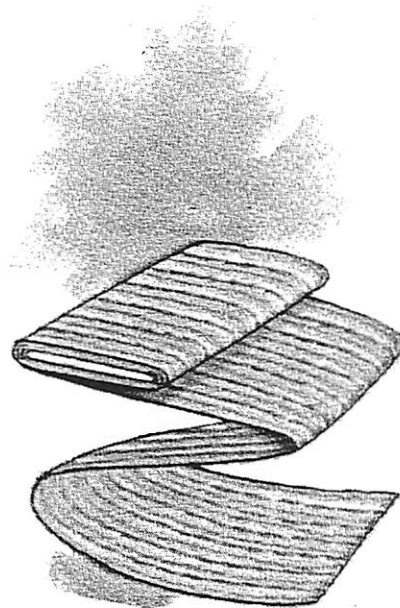
ぢみのシャガじまは、「阿

波しじら」と命名されて、

今も多くの人から、そのさ

わやかなはだざわりを喜ば

れている。



### 13 母の号令

「みんな集まって。」

三年前のことであった。ある日曜日の朝、母は、みんなに号令をかけた。

「わるいけど、お母さん、帰りがおそいときが多いから、それぞれ、手伝えることはしてちょうだいね。」

父と二人で洋服の店をしている母のたのみだった。親子四人で分担たんについて話し合った。中学三年の兄は、おふろのそうじ。わたしは、洗い物あらと洗濯物せんたくを取りこむ仕事になった。

初めのうちは、うまくできなくて母が後から洗い直すこともあった。けれど、今ではもう、母より上手で、洗い物のプロと言われてもおかしくないぐらいになった。でも、洗濯物を取りこむのは苦手で、遊びに夢中むちゆうになって、取りこ

むのを忘れ、もう一度洗い直さなくてはならないこともあった。

この手伝いを始めて二年間ぐらいは、自分の仕事が楽しくて仕方がなかったが、近ごろ、好きなテレビ番組などが多くなってきたので、ときどきいやになりなまけるときがある。そんなとき、母が、

「早くしなさい。」

と言うと、わたしは、

「もう、うるさいなあ。」

と言い返す。父は、このけんかを、「親子戦争」と言って、おもしろがっている。でも、いやでもやり終えたとき、母から、

「ありがとう、ご苦労さん。」

と言われると、また明日もがんばろうという気持ちになる。自分がやらなければだれかが困る。仕事の分担というものは、そんなものであると思う。

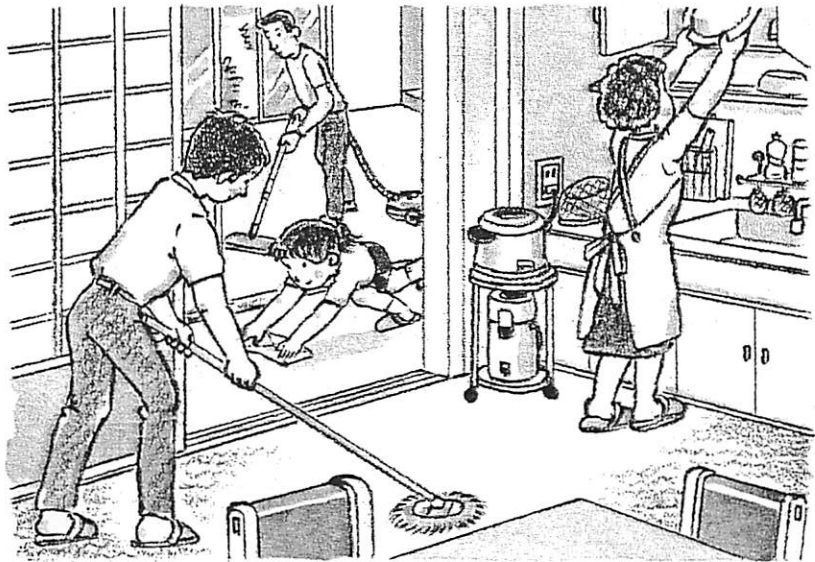
兄もふろそうじはあまり好きでないけれど、しなければみんなが入れないからせつせとタイルをみがいている。そして、  
「今日の湯かげんは、本当によかった。」  
と言って、母にほめられたときに、にやっと笑っている。兄もそんなとき、満足している。  
仕事の分担といえは、わたしの家では、  
もう一つおもしろいことがある。

日曜日の昼食の後、

「それでは、がんばろう。」

と言う母の号令で、全員が大そうじにかかっていることだ。

だれも何も言わなくても、母は食事の後かたづけ、台所とトイレのそうじ。父は、毎回、もくもくとそうじ機をかけてくれる。

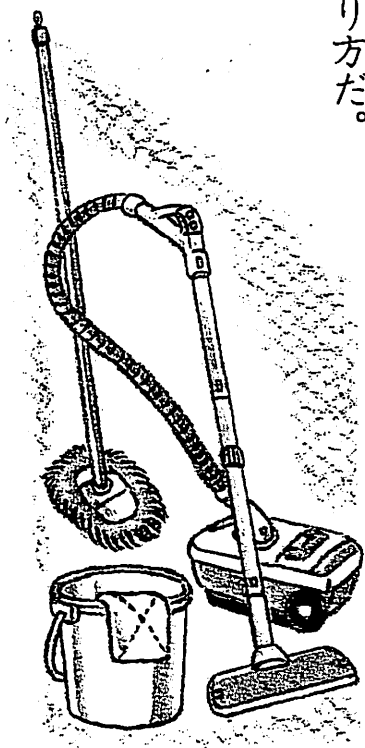


兄は、自分の部屋と台所の床ふき。わたしは、自分の部屋と、ぞうきんがけ。それぞれが、役目を分担して、てきぱきと働いて一時間。

散らかっている、なんだかうつとうしかったわが家が、ぱっと明るくなって、どこもかしこもピカピカ。みんなでお茶を飲むと、ほっとして本当に気持ちいが安らぐ。

わたしは、日曜日の「母の号令」が大好きだ。家族全員で話し合って、家族全員で協力し合って、みんなで楽しくくらし、ていこうというのが、わが家のやり方だ。

「母の号令」は、これからも続けてほしい。こんなふうに助け合いができる家族は、だれの家族にも負けないすてきな家族だと思う。



#### 14 黄熱病おうねつとのたたかい

ニューヨークから北へ車で四時間。山と湖に囲まれた避暑地しよの山荘そうで、静かに物思いにふけっている男がいた。世界的に有名な医学者、野口英世ひでよである。英世は、四十一歳さいのこの年、病気が重なり、入院するという不運にみまわれた。しばらくこの山荘で、病後の静養をしていたのである。アメリカでの十数年間の生活で、こんなにのんびりしたのは初めてだった。

どこことなく故郷こきやうの猪苗代いなわしろに似ている風景をながめていると、幼いおさないときから今までの思い出が、次々とうかんでくるのであった。

英世は、仲間から「ねむらない日本人」とよばれるほど研究に打ちこみ、世界的に注目される研究成果を次々と発表してきた。そして、世界の一流学者の証明であるロックフェラー医学研究所の正員となった。慣れない外国での生活、

# 13 母の号令

4-(5) 父母, 祖父母を敬愛し, 家族の幸せを求めて, 進んで役に立つことをする。(家族愛)

## 1 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

家庭は, 家族一人一人にとっていわば生活のよりどころである。したがって, 家庭において家族が幸せに生活できることを望まないものはないはずである。日常生活を振り返るとき, 家族は老若男女の別はあっても, 実際にはそれぞれの役割をもち, その役割を互いに果たし合うことによって家族の幸せは実現する。

そこで, 一層積極的に家庭生活にかかわり, 自分には何ができるかを考えて, 家庭での自分の役割を自覚し, 家族のために積極的に役立つ態度を養いたい。

〈子どもの実態について〉

家庭科学習とも関連して, 家庭では互いに協力し, 助け合わなければならないことは, 理解している。しかし, それぞれの家庭は千差万別で, 溺愛されている子, 放任されている子, 厳しく育てられている子, 温かく育てられている子等, それらの影響が外見にもそれとなく現れるのがこの時期の子どもたちである。家族の一員としての役割を自覚している子, 何もしないで

いる子等もその立ち居振る舞いから, 家庭での役割の果たし具合がにじみ出ており, 家族のために積極的に役立つとする態度は十分身に付いていない子どもも見られる。

〈資料について〉

父と二人で洋服の店をしている母の帰りが遅いので, 家族はそれぞれできる仕事を分担して手伝うことになった。

主人公は, くじけそうになったこともあったが, もう二年以上も続け, 分担の仕事も上手になっている。

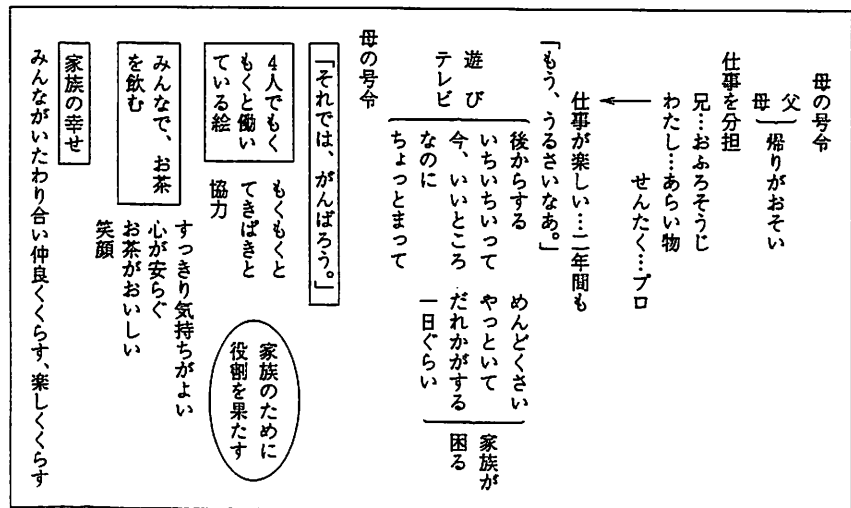
日曜日の昼食の後, 「それでは, がんばろう。」の母の号令で全員が大そうじにかかる。父, 兄, 母, 主人公はもくもくと分担の場所をそうじする。一時間後, ぱっと明るくなった部屋でお茶を飲み安らく。

資料は易しいが, 行為の奥にある心情を深く考えさせ, ねらい価値へ迫らせたい。

## 2 ねらい

家庭での自分の役割を自覚し, 家族の幸せのために進んで役に立つとする意欲を高める。

## 3 板書



## 3 展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 家族の役に立ったことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族のために役立ったことはありますか。</li> </ul> <p>(2) 資料「母の号令」を読んで, 話し合う。</p> <p>① 資料の中の家族について初めの感想を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事をみんなが分担し, 助け合っていてよい家族だ。</li> <li>・主人公は, いやなときもあったが役割を果たして感心だ。</li> <li>・母の一言でみんなの心が変わるのだから。</li> </ul> <p>② わたしは, どんな気持ちで「もう, うるさいなあ。」と言いましたのしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもがんばっているのに少しぐらい。</li> <li>・わたしだって, テレビを見たいし, 遊びたい。</li> <li>・そんなに言うのなら, だれかがしたらいいのだ。</li> </ul> <p>③ 母の号令で, 全員はどういう気持ちで大そうじをしているのしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母の号令でみんなの気持ちがひきしまり, 心がひとつになる。</li> <li>・仕事は大変だけどみんなで協力してやるので楽しい。</li> </ul> <p>④ みんなでお茶を飲むときの, 主人公や家族はどんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいになったなと思ひ合い, すすがしい気持ちだ。</li> <li>・力を合わせてやった喜びを味わっている。</li> <li>・幸せな気持ちでお茶もおいしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。</li> <li>・初発の感想をもとに共通の問題意識がもてるようにする。</li> <li>・分担の仕事が二年間も続いている, 今ではプロ級ということも考え合わせながら, 遊びたい気持ちに負ける主人公に共感できるようにする。</li> <li>・家族のために, 互いに役割を果たしているという実感を全員でそうじをする意義と心情を考えることができるようにする。</li> <li>・働いた後, きれいになった部屋で家族が互いに顔を見合わせながら, ほっとしたひとときを過ごしている情景を想像させ, 家族の喜びと幸せな気持ちを感じ取れるようにする。</li> </ul>
<p>(3) 家庭の中の自分の生活を振り返り, 話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族に対して, どのような考えや態度でいましたか。</li> <li>・自分が家族のために何かをすることが, 家族の心を明るくすることになるのだ。</li> <li>・病気のときなど家族がやさしくしてくれたので, 自分も家族のためにがんばった。</li> </ul> <p>(4) 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族とのかかわりの中で, 自己の課題を見つけられるようにする。</li> <li>・家庭的に恵まれていない子どもについては十分配慮する。(心のノート P88~91)</li> <li>・家庭のよさ, 家族のぬくもりのある説話をして実践意欲を高めることができるようにする。</li> </ul>